2023年　キャンプ紀行

帯広市医師会
北海道社会事業協会　帯広病院
田中（たなか）　清高（きよたか）

みなさん初めまして、帯広協会病院麻酔科の田中清高と申します。札幌医大出身で医師18年目、小中学校時代を過ごした帯広で妻と子供と犬１匹と猫１匹で暮らしています。さて、コロナ禍が始まって生活習慣や余暇の過ごし方が変化した方が多いと思いますが、自分の変化の一つが子供のころ家族で行っていたキャンプを自分でも始めたことです。しかし、家族がいまいち乗り気ではないことが多く、当初は無理やり誘って年に１～２回行くのが関の山でした。昨年の春に、ふと「誰もついてこないならば一人で行けばいいじゃないか」と思い立ちまして、一人でキャンプに行く、いわゆるソロキャンプも始めてしまいました。ということで、昨年度に行ったキャンプ場を勝手にレビューさせていただこうと思います。

①６月３日　大沼野営場

記念すべき初ソロキャンプに選んだのは厚真町にある大沼野営場でした。風景がとても綺麗な上に、受付で貰える各種ゴミ袋で分別すればゴミを捨てられるし、トイレは綺麗だし、比較的広いスペースに車を横付けできることといい、今思えば初回からかなり当たりの素晴らしいキャンプ場でした。ただ６月の頭だったので想定より寒く、まだ防寒対策が甘かったので夜は眠れないほど寒かったです。準備を万全にしてまた行ってみたいです。

②６月18日　オンネトー国設野営場

２回目のソロキャンプはオンネトーでした。ここも風景が素晴らしかったのですが、テントサイトでは携帯の電波が全く入らないという上級者仕様で、「今クマに遭遇したらどうしよう」と怖いことを考えながら過ごしていました。あとは食料を出しっぱなしにしていると未開封のインスタントラーメンでさえキツネに持っていかれてしまいましたので、ゴミと食材の管理は注意が必要です。まだ６月だったことと場所の関係か、ここもとても寒くて大変でした。

③７月８日　穂別キャンプ場

次男も連れて行くように言われて、二人で行ったのが穂別キャンプ場でした。ここは典型的なファミリーキャンプ場で、多数の家族連れで賑わっていました。気温は一転して夏日となり非常に暑く、川遊びをする子供たちが楽しそうでした。

④７月９日　トムラウシ野営場

たまたま有給休暇だったこともあり、穂別から帰宅し次男を家において、すぐさまソロキャンプに向かったのがトムラウシ野営場です。ちょっと奥地過ぎて行くまでが大変でした。しかも、なんと自分しかキャンパーがおらず、いつから立っているのか不明なクマ出没注意の看板の横での独りぼっちキャンプはなかなかスリルがありました。帰りにトムラウシ温泉に入っていこうと思ったら、営業開始が昼からなのが要注意です。

⑤７月29日　ナウマン公園キャンプ場

中一になる長男とその友達、次男という子供三人を連れて行きました。よく整備されたキャンプサイトで、設営してしまえば歩いてお風呂に行けるのが良かったです。最高気温35度という記録的な猛暑の中で汗だくになりながらの設営でした。

⑥９月16日　遊び小屋コニファー

次男と二人で行ってきました。テントのすぐ横に小川があって、水音が聞こえる風情あるところでした。キャンプ場主催でスイカ割りなどの子供向けのイベントが開催されていました。

⑦９月23日　然別湖北岸野営場

９月下旬にシーズン最後として選んだのが然別湖北岸野営場です。行ってみると思いのほか人が多くてびっくりで、然別湖がすごく綺麗だったので納得しました。９月ということと標高がやや高いこともあり夜は例のごとく寒さで寝られなかったです。

以上が2023年に行ったキャンプ場の紹介でした。全部あわせて７泊14日も野営したのかと思うと我ながらよくやったなと思います。総じて言えるのが夜の寒さ対策がまだ甘いことで、寝袋の中に毛布や湯たんぽを入れてみましたが全然太刀打ちできなかったです。数万円もする高い寝袋を買うのも手なのですが、冬キャンプをするわけではないのでコスパを考えると悩ましいところです。

人にもよるかもしれませんが、夜に一人でたき火をしながらお酒を飲むだけでも格別なので、興味がある方は是非キャンプを始めてみることをオススメします。